

研究・調査報告書

| | | |
|--|--------|--------------------------|
| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
| A-141 | 21-043 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| <p>Alcohol and cigarette smoking consumption as genetic proxies for alcohol misuse and nicotine dependence.</p> <p>アルコール乱用およびニコチン依存の遺伝的プロキシ (代替指標) としてのアルコールおよびタバコ摂取</p> | | |
| 執筆者 | | |
| Sanchez-Roige S, Cox NJ, Johnson EO, Hancock DB, Davis LK. | | |
| 掲載誌 | | |
| <p>Drug Alcohol Depend. 2021 Apr 1;221:108612.</p> <p>doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.108612.</p> | | |
| キーワード | | PMID |
| アルコール, 飲酒, 依存, 遺伝子, ニコチン, フェノムワイド関連研究 (PheWAS), 多遺伝子解析 | | 33631543 |
| 要 旨 | | |
| <p>背景: アルコール乱用およびニコチン依存症の遺伝的プロキシとして、アルコールおよびタバコ摂取の役割を検討する。</p> <p>方法: ヨーロッパ系家系の対象で測定したアルコール消費、アルコール乱用、ニコチン依存に関連する GWAS データとして、UK Biobank (UKB) とその他の集団ベースのコホート (最大合計 N = 263,954)、医療施設コホート内で遺伝子相関を検討している BioVU (N = 66,915) のデータを用いた。アルコールについては、UKB における AUDIT の消費量と乱用についての定量的な測定値を用いた。喫煙については、UKB を含む GSCAN コンソーシアムの 1 日あたりのタバコ本数を、ニコチン依存については UKB では ICD コード、非 UKB コホートでは Fagerström Test for Nicotine Dependence を用いた。</p> <p>結果: UKB およびその他集団ベースのコホートにおける十分に検出力のある GWAS から構築した polygenic risk scores (PRSs) を用いて、ニコチン依存およびアルコール乱用の遺伝的代替指標としての喫煙量およびアルコール消費量をそれぞれ検証した。喫煙量とニコチン依存の表現型は、喫煙と関連のある疾患や代謝性疾患など多くの疾患において同様の関連を示した。一方、アルコール乱用は、精神疾患と関連が見られたのに対し、アルコール消費は代謝性疾患と関連がみられ、アルコール乱用の表現型とは異なる遺伝的関連パターンを示した。</p> <p>結論: 本研究において、一般集団で容易に測定できる喫煙量は、ニコチン依存症の遺伝的プロキシとして優れている可能性が考えられたが、アルコール消費量は、アルコール乱用の直接的な遺伝的プロキシとはならない。</p> | | |